

環境特集号

第22号（平成26年9月発行）
豊能町建設環境部環境課
TEL 736 - 1190（直通）

ごみを減らす4Rの取組みを実践しましょう

ごみを減らすためには、皆様のごみを減らす意識が最も大切です。生活を振り返ってみた時に、必要以上にものを買ったり、まだ使えるものを捨てたりしていませんか。ごみを減らす「4R」を心がけて、環境にやさしい、無駄のない暮らしを目指しましょう。

4Rってなに？

リフューズ (Refuse) 発生回避 ごみとなるものの受け取りを断る	リデュース (Reduce) 排出抑制 ごみとなるものを減らす
リユース (Reuse) 再利用 繰り返し使う	リサイクル (Recycle) 再資源化 資源として利用する

4R 取組みの順番

1. リフューズ(Refuse) ごみの発生回避

発生源でごみになるものを断つこと、家に持ち込まないことです。たとえば・・・

- 買い物の時に安いからといって、必要以上に買わない。
- 買い物の時にはマイバックを持参し、レジ袋や過剰包装を断るなど、使い捨て型のライフスタイルを見直す。
- 必要のないダイレクトメール等は、受け取りを拒否する。



2. リデュース(Reduce) ごみの排出抑制



買う量、使う量を減らすことです。たとえば・・・

- パックされた製品の代わりに量り売り製品を購入する。
- 使い捨て容器入りの製品（シャンプー、リンス等）は詰め替え用を買うことで容器のごみを減らす。
- 食材購入時、料理の際には、買いすぎ、作りすぎを減らす。
- 生ごみを排出するときには水を切って、重さと量を減らす。
- 弁当や飲み物を購入する際、割り箸、ストロー、スプーンなどの使い捨てのものを受け取らないように心がける。

3. リユース(Reuse) 製品・部品の再利用

繰り返し使うことです。たとえば・・・

- 使い捨て容器（ワンウェイ容器）ではなく、ビールびん・酒びん・牛乳びん等のように何度も使える容器（リターナブル容器）に入ったものを選ぶ。
- フリーマーケットやリサイクルショップ、古本屋などを積極的に利用する。
- ものをすぐ捨てないで、修理などをして繰り返し使う。
- 一時期しか使用しないものは、レンタル用品を利用する。
- 必要としている人に譲る。



4. リサイクル(Recycle) 再資源化

資源に再生して、再利用することです。自分で再資源化することは難しいので、主にリサイクルルートにのせることです。たとえば・・・



- 地域での集団回収で、古新聞・古雑誌・段ボール等の紙類、また古着・古布等を引き渡す。
- 町で行っている、再資源化が可能なものについて、分別を徹底して排出する。
- スーパーやコンビニがルールを決めて実施している店頭回収を利用する。
- 生ごみを堆肥にする。生ごみ処理機、コンポスト容器などで自家処理を行う。
- 再生商品を購入する。いくらリサイクルルートへ排出しても買う人がいなければリサイクルの輪はつながりません。必要なものであればリサイクル製品の購入に努めてください。

<ごみ減量目標数値の検証>

豊能町ごみ減量化計画（第2次）が平成26年度で目標年度を迎えます。平成25年度の状況がまとまりましたので、過去5年間のごみ減量・資源化の状況をみなさまにお知らせします。

町のごみ量は、住民の皆様の減量化への取り組みにより平成17年度から毎年減少しています。しかし、2次計画の目標は、中間目標年度（平成21年度）が、「総排出量のうち、40%を減量・資源化する」ことでしたが、平成21年度は36.0%で、中間目標を達成できませんでした。

また、平成25年度においても33.3%で、最終目標年度（平成26年度）の目標、「総排出量のうち、50%以上を減量・資源化する」を達成することは難しい状況です。目標達成のためには、1人1日当たり156gを更に減量・資源化しなければなりません。

皆様の更なる減量・資源化にご協力をお願いします。

◎各年度の資源化率の推移

1人1日当たりのごみ排出量(g)

	15年度 時点	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 最終目標
A. 目標総排出量（第2次計画時）	924	923	925	927	928	930	931
① 町が収集する前の減量	0	50	9	78	51	46	63
② 町が収集した後の資源化	205	190	184	170	163	151	285
既存の資源化量	205	190	184	170	163	151	207
新たな 資源化量	現在の分別収集の徹底	—	—	—	—	—	30
	新たな資源化の推進	—	—	—	—	—	48
③ 集団回収の推進	118	92	99	102	108	113	118
B. ごみ減量・資源化量の合計	323	332	292	350	322	310	466
資源化率（ $B \div A \times 100$ ）	35.0%	36.0%	31.6%	37.8%	34.7%	33.3%	50.1%

表の説明 ①町が収集する前の減量

住民の一人ひとりの方が減量されたもの

②町が収集した後の資源化

住民の皆様が資源ごみとして出された、ビン、カン、ペットボトル、容器包装プラスチック類、紙類、布類及び乾電池などの有害ごみ、植木剪定くず、食用廃油の収集量

③集団回収の推進

新聞・雑誌類・ダンボール・古布類など資源紙類を地域の集団回収で収集された量

<家庭系の可燃ごみを減らしましょう>

家庭系可燃ごみ、資源ごみ1人1日当たりの排出量の推移

単位：g

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
可燃ごみの排出量	424	428	436	447	451
資源ごみの排出量	277	281	270	270	263

上表のように、1人1日当たりの可燃ごみの量は減っていませんが、資源ごみは減ってきています。可燃ごみの中には、資源物（紙類・布類）や水切りが十分でない生ごみが見受けられます。

可燃ごみの重量が多いほど、当然ごみの処理経費は多くなります。資源物は資源に分別し、生ごみは水切りを徹底するなど工夫をしていただくことで、ごみ処理に係る経費は少なくなります。

皆様のより一層のご協力をお願いします。

そこで今回は生ごみの水切りについて取り上げます。

生ごみの水切りについて



台所のコーナーボックス（三角コーナー）に食材くずなどを入れ、水切り後可燃ごみとして出されていると思います。

可燃ごみに含まれる生ごみは、80%が水分と言われています。各家庭で生ごみを出す前にギュッとしばってみましょう。

そうすることで、可燃ごみの減量と処理経費の削減につながります。

例えば、ギュッとしばって大さじ3杯（45CC=45g）の水切りをしていただくと、あくまで試算ですが、次のとおりとなります。水切りは、簡単・手軽で効果がすぐに出る減量方法です。

<試算>

・減量試算

$45 \text{ g/世帯} \times 8, 746 \text{ 世帯(H26.3月末)} \times 365 \text{ 日} = 143,653 \text{ kg}$ とおよそ年間144tもごみが減ります。

・経費試算

1tあたりにかかっている処理経費は、約2万3千円です。

（平成25年度国崎クリーンセンターの処理経費）

$144 \text{ t} \times 2 \text{ 万}3 \text{ 千円}$ で約330万円も負担金が減ることになります。



生ごみの水切りにご協力をお願いします！！